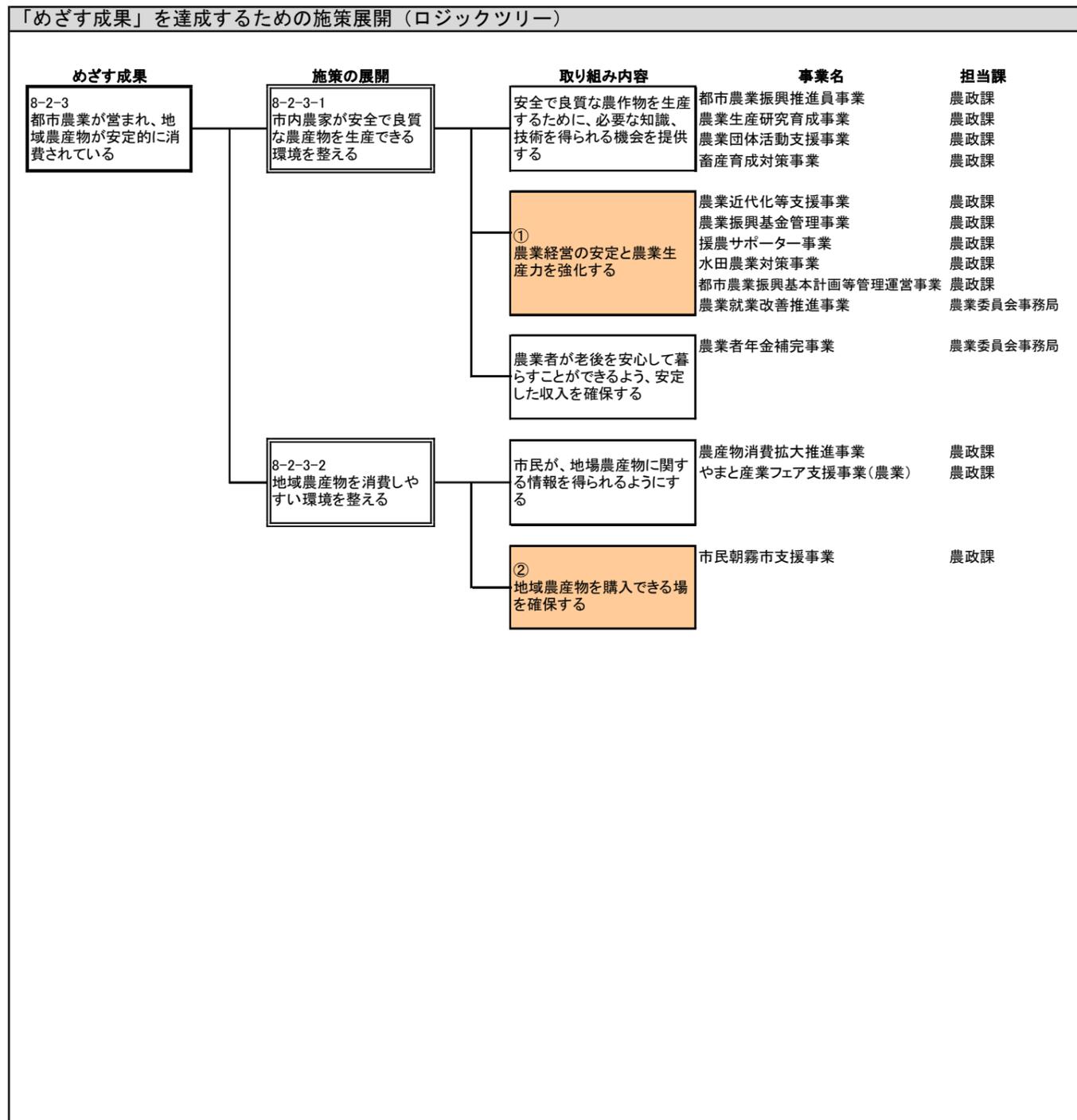


令和3年度「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート		
健康領域	社会の健康	
基本目標	8	市民の活力があふれるまち
個別目標	8-2	まちのにぎわいと地域経済の振興を図る
めざす成果	8-2-1	商店街や企業が活発に活動している
	8-2-2	市内で働く人が増え、生き生きと働いている
	<b>8-2-3</b>	<b>都市農業が営まれ、地域農産物が安定的に消費されている</b>
	8-2-4	多くの人が「大和」に訪れ、まちの魅力も高まっている



所管部		環境施設農政部				
<b>【成果を計る主な指標】</b>						
指標の名称		前期基本計画期間（R1～R5年度）				
		計画当初値	実績値（R1）	実績値（R2）	中間目標値（R3）	最終目標値（R5）
①	援農サポーターの登録者数	40人	39人	30人	42人	45人
②	朝霧市、タヤけ市、おさんぼマートの年間開催回数	152回	153回	145回	150回	150回
<b>【令和2年度までの主な取り組み内容及び今後の方針】</b>						
施策の展開	主な取り組み内容		今後の方針			
市内農家が安全で良質な農産物を生産できる環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>■援農サポーター（R2年度登録者：30名）が農家の求めに応じて支援活動することで、生産者と消費者の相互理解を深め、遊休農地の未然防止、農業生産の維持に貢献しました。</li> <li>■防鳥ネットやコインロッカー型野菜販売機の設置などに対して補助することにより、都市農業に適した農業の近代化を推進することができました。</li> <li>■新規就農者に対し、相談の受付や農業委員会だよりの発行により、農業に関する情報を提供しました。</li> <li>■（独）農業者年金基金から制度の情報提供、各種届出受理などの業務を受託し、農業に専念できる環境の整備を進めました。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■既存の援農サポーターの高齢化に伴い登録者数が減少していることから、広報やまと等を活用し、広く市民からサポーターの発掘を行い、人材の充実を図ります。</li> <li>■農業近代化支援については、時代に適した都市農業を推進する必要があることから、引き続き、各農業団体が行う共同施設整備への支援を中心に進め、併せて各年度毎に支援対象の見直しも行っていきます。</li> <li>■各種イベントの際に設置する新規就農者相談窓口や農業委員会だよりになどにより、引き続き、情報提供に努めます。</li> <li>■農業者年金制度についての情報提供・普及・啓発に努めます。</li> </ul>			
地域農産物を消費しやすい環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>■市が支援する、年間で約150回開催されている朝霧市やタヤけ市等には毎回多くの来客があることから、これらのイベントによる地産地消の増進が図られました。</li> <li>■市内小学生を対象に実施する米作文コンクールや親子農業見学会、料理教室、食育フェアなどの農産物消費拡大推進事業により、市民の都市農業に対する関心と理解を深めてもらうとともに、地場農産物に関する情報を提供しました。（R2年度は新型コロナの感染拡大防止のため中止しました。）</li> <li>■やまと産業フェアでは、農産物品評会や植木苗物品評会等を通じて、多くの市民に本市農業を紹介しました。（R2年度は新型コロナの感染拡大防止のため中止しました。）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■朝霧市等については、端境期における販売品数の減少がみられるため、出店者数の増加、出店内容の充実を図っていきます。また、新型コロナウイルス感染拡大防止策をとることにより、引き続き出店可能な環境を整えていきます。</li> <li>■地場農産物の直売所の情報を周知すること及び米作文コンクールや料理教室等のイベントを通じて積極的に地場農産物を消費するきっかけを提供することにより、市民による地産地消の推進を行っていきます。</li> <li>■やまと産業フェアにおける地場農産物のPRは、市民が本市の農業（都市型農業）について知るための効果的な手段でもあると捉えているため、引き続き実施してまいります。</li> </ul>			